

9. ②MSM を限定とした HIV/STD 検査場の結果報告

星野 慎二（かながわレインボーセンターSHIP・横浜 Cruise ネットワーク）

1. はじめに

横浜 Cruise ネットワークでは神奈川県との協働事業により、MSM(men who have sex with men)のHIV感染者とAIDS発症者の減少を目的としたコミュニティセンター「かながわレインボーセンター『SHIP』」を2007年9月から横浜駅西口に開設。MSMが周囲の人の目を気にせず、同じ仲間同士で情報を共有し合えるコミュニティセンターとしてオープンし、毎月第三月曜日にHIV/STD検査を実施してきた。ここでは、2008年1月から12月までの、HIV/STD検査結果について報告する。

2. SHIPの事業目的

MSMの多くは自分が同性愛者であることを学校や職場の仲間、家族にも伝えることができず、自分自身のことを隠し偽り、「異性愛者」を装って生活している。そのことがストレスとなり、成人後のメンタルヘルスに大きく影響していると考えられる。また、メンタルヘルスとHIV感染リスクの高い性交渉との関連が先行研究で指摘されている。SHIPではMSMを対象に、同じ悩みを持つ立場から「自らがこころを開く機会の提供」、「正しく、かつ多様な情報の提供」、「専門カウンセラーによる継続的なカウンセリングの提供」などトータルな支援ができる「MSM健康支援センター」を設置し、MSM一人ひとりにきめ細かな支援を行うことを目的に設けられたコミュニティセンターである。通常はコミュニティセンターとしてオープンし、毎月1回MSM限定のHIV/STDの即日検査を実施してきた。

3. SHIPにおける特色

SHIPではHIV/STD検査を実施するにあたり、プライバシーの面に考慮した検査体制作りを行った。まず、コミュニティセンターのオープン日と検査日を完全に分けて、少人数制による予約制にするとにより、他の人と顔を合わせるような配慮している。

受検者は移動や待ち時間が多いと不安に感じることがある。そのためSHIPではプレカウンセリングと採血を同じ個室で同じスタッフが行うことにより、受検者の移動を少なくし不安感を和らげるようにしている。(図1)

また、MSMの中には過去にHIV検査を受けたことがありながら感染してしまう人が少なくない。このように検査のリピーターが感染してしまう背景には、情報や知識だけでは行動変容に結びつかないことが多い。行動変容を起こしてもらうためには人とのコミュニケーションを通じて自己の行動を振り返る作業が重要と考えられる。当検査場では単に検査をするだけでなく、アンケートを活用しながらひとりひとりにきめ細かいカウンセリングを行うと共に、カウンセリングの内容をカルテに記録し(2008年12月より受検者から記録の同意を口頭で得ている)、長期にわたり健康管理が行えるようにしている。

4. 検査方法

SHIPの検査は神奈川県健康増進課、厚生労働省科学研究費エイズ対策研究事業『HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究』、横浜市立市民病院、港町診療所、しらかば診療所などの各医療機関と連携して検査を実施している。検査結果が陽性判明した場合は、受検者と相談の上、専門の医療機関を紹介し

ている。

実施日時：毎月第三月曜日 午後6時～9時
(受付時間)

検査項目：HIV・梅毒・B型肝炎の即日検査
(ダイナスクリーンを使用)

予 約：電話による予約制
(検査日の1週間前から受付)

定 員：1日9名(2008年12月現在)

5. SHIPにおける受検者動向

2008年1月から12月までの受検者数は107人で、全員から調査倫理の同意を得た。

受検者の動向は以下の通りである。

(1) セクシュアリティ

MSM 99人(92.5%)

非MSM 8人(7.5%)

当検査場はMSM専用ではあるが、電話予約の際にセクシュアリティは聞いていないため、まれに非MSMが混じることがある。

(2) 受検者の居住地域(図2)

横浜市 49人(45.8%)

川崎市 11人(10.3%)

県域 22人(20.6%)

東京都 15人(14.0%)

千葉県 5人(4.7%)

埼玉県 1人(0.9%)

その他 3人(2.8%)

不明 1人(0.9%)

県内は82人(77%)、県外からの受検者が25人(23%)を占めていた。

(3) 年齢別構成(図3)

10歳代 1人(0.9%)

20歳代 41人(38.4%)

30歳代 51人(47.7%)

40歳代 11人(10.2%)

50歳以上 3人(2.8%)

20～30歳代の受検者数が多かった。

(4) HIV受検歴

初回 31人(29%)

受検歴有り 76人(71%)

(5) 過去に受検した施設

HIV受検歴のある76人が以前に検査を受けた施設

保健所 42人(55%)

南新宿 12人(16%)

SHIP 8人(11%)

イベント検査 5人(7%)

医療機関 6人(8%)

不明 3人(4%)

SHIPの8人は、当検査場のリピーターである。

6. 検査結果

1年間の陽性者数は以下の通りであった。

HIV抗体 3人(2.8%)

梅毒TP抗体 13人(12.1%)

HBs抗原 3人(2.8%)

(月別の受検者数と陽性者数は表1参照)

6.1 検査陽性者の転帰

なお、HIV陽性者のうち1名はすでにHIVにて他院通院中であり、他のSTD検査目的の受検であった。1名は医療機関に紹介受診し、残る1名は他のSTDについて紹介受診したが、HIVについては未受診の状態である。梅毒TP抗体陽性者のうち、3名が、HBs抗原陽性者のうち1名が医療機関に紹介受診した。

7. 考察

県外からの受検者が23%を占めていることや、事後アンケートで約90%以上がSHIPの検査を知人に進めたいと答えていた。ポストカウンセリング及びアンケート結果におけるポジティブなフィードバックから、利用者の満足度は高く、また10%のリピーターが含

まれることから、MSM に親しまれ長期に利用されるサービス枠組みである可能性が示唆される。医療機関との連携を密に行い、検査陽性であった受検者が医療機関受診に確実につながるよう、より強力に支援することが今後の課題である。

参考文献：日高庸晴（2000）『ゲイ・バイセクシュアル男性の異性愛者的役割葛藤と精神的健康に関する研究』思春期学 18 卷 3 号 264-272, 日本思春期学会

図1 検査の流れ

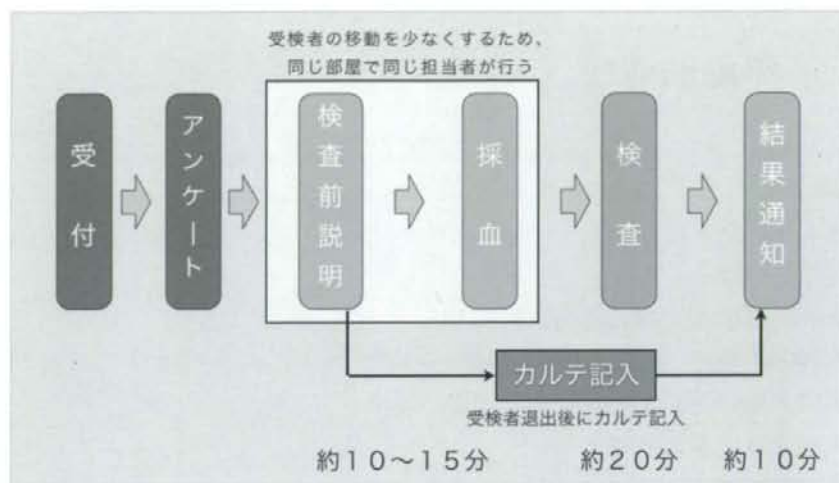


図2 受検者の居住地別構成

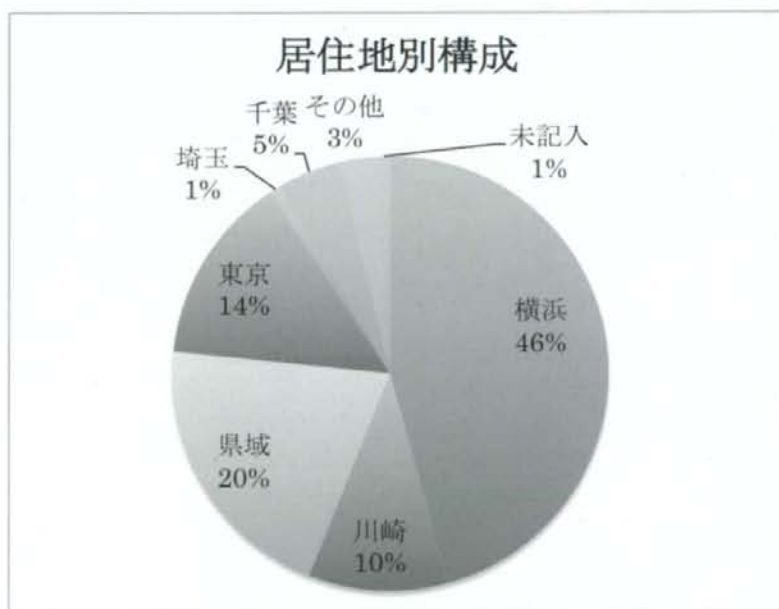


図3 年齢別構成

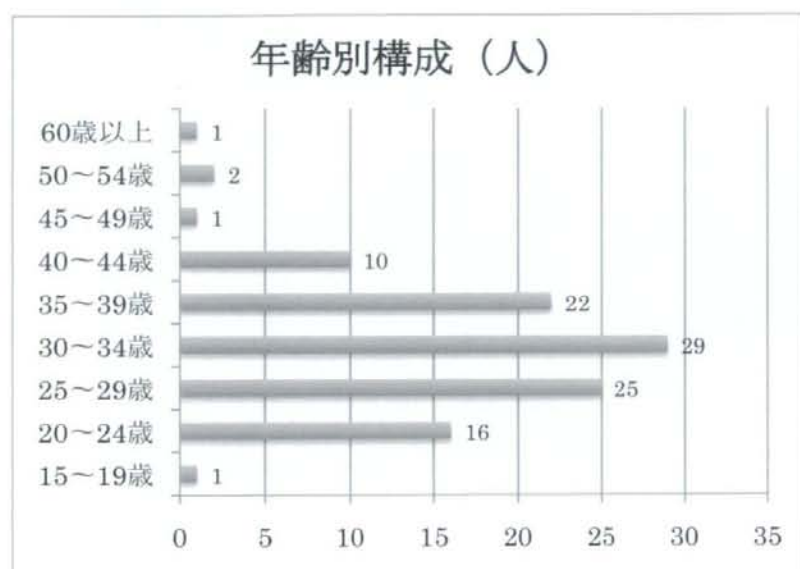


表1 月別陽性者数

	受検者数	HIV抗体	梅毒TP抗体	HBs抗原
1月	8	0	3	0
2月	9	0	0	0
3月	8	1	1	0
4月	5	1	1	1
5月	7	0	0	0
6月	10	0	0	0
7月	7	0	0	0
8月	7	0	0	0
9月	7	0	1	0
10月	9	0	1	2
11月	9	0	4	0
12月	8	0	1	0
12月(臨時)	13	1	1	0
計	107	3	13	3
割合		2.8%	12.1%	2.8%

10. HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査（総合）

- 須藤弘二（神奈川県衛生研究所微生物部、慶応義塾大学医学部微生物学・免疫学教室）
宮崎裕美（神奈川県衛生研究所微生物部、エイズ予防財団リサーチ・レジデント）
佐野貴子（神奈川県衛生研究所微生物部）
近藤真規子（神奈川県衛生研究所微生物部）
加藤真吾（慶応義塾大学医学部微生物学・免疫学教室）
今井光信（神奈川県衛生研究所）

研究概要

現在インターネット上では、検査希望者が検査機関に行くことなしに HIV 検査を受検することができる“HIV 郵送検査”を取り扱うサイトが増えつつある。この HIV 郵送検査について現状を把握するために、2006 年に 6 社、2007 年に 8 社、2008 年に 8 社の郵送検査会社に対しアンケート調査を行い、取扱状況や検査実施状況に関する実態調査を行った。またパネル検体を用いた検査感度の調査と、スクリーニング陽性検体の再検査による特異性の調査を行うことにより、郵送検査の検査精度調査を行った。

アンケートの結果、HIV 検査の受検費用は 2625～7950 円で、検査にかかる日数は検体の受け取りから 1～14 日であった。検査検体は全血を濾紙や採血管で保存したものをを用いており、PA 法、イムノクロマト法、CLEIA 法、EIA 法の臨床検査キットで検査を行っていた。検査結果は郵送での通知に加えて E-mail やネットでの通知が選択できる会社もあり、検査結果が陽性だった場合、ほとんどの検査会社で病院での検査をすすめていた。郵送検査会社全体の年間検査数は 2006 年が 39868 件、2007 年が 44384 件、2008 年が 50672 件であり、スクリーニング検査陽性数は 2006 年が 221 例、2007 年が 220 例、2008 年が 234 例であった。

パネル検体 8 例を用いて郵送検査を行った結果、参加を希望した 5 社全てで、陽性検体 6 例がすべて陽性（要再検査含む）、陰性検体 2 例がすべて陰性であった。またスクリーニング検査陽性検体 17 例を用いて PA 法と WB 法で再検査した結果、陽性 14 例、陰性 1 例、判定保留 2 例であった。HIV 郵送検査のアンケートと臨床検体の再検査についてはさらに継続して調査を行いたい。

A. 目的

現在 HIV 検査は、土曜・日曜・夜間検査、即日検査や NAT 検査等の検査希望者のニーズに合わせた検査が、保健所・病院・民間クリニック等の検査機関で行われている。それらに加えて、インターネット上では、検査希望者が検査機関に行くことなしに HIV 検査を受検することができる“HIV 郵送検査”を取り扱うサイトが増えつつある。この HIV 郵送検査について現状を把握するため、昨年度に引

き続き取扱状況や検査実施状況に関する実態調査を行うと共に臨床検体を用いた検査精度調査を行った。

B. 方法

検索サイト「Google」を用いて、検索ワード「HIV 検査」、「エイズ検査」、「郵送検査」等で検索を行い、およそ 30 サイト以上の HIV 郵送検査を取り扱うホームページを検索した。それらのホームページを運営している会社を

調べたところ、HIV 郵送検査を取り扱う会社が2006年で8社、2007年で9社、2008年で12社あることがわかった。これらの郵送検査会社にアンケート調査の依頼を行った所、2006年で6社、2007年で8社、2008年で8社から回答が得られた。

アンケート調査は以下の11項目について行った。また2006年の調査では検査精度調査への参加の有無をアンケート時に確認した。

- ① HIV 郵送検査の開始年月
- ② 検査申込方法
- ③ 検査費用
- ④ 検査検体と保存方法、検体が血液の場合の採血器具
- ⑤ 受検者から会社への検体輸送方法
- ⑥ スクリーニング検査の方法と使用キット
- ⑦ スクリーニング検査の実施設
- ⑧ 検査結果の通知方法と通知までの日数
- ⑨ スクリーニング検査陽性時の対応
- ⑩ 年間検査数とスクリーニング検査陽性数
- ⑪ 他に取っているSTD検査の種類

(資料1、2、3)

検査精度調査へ参加希望のあった5社より各社の検査キットを取り寄せ、それらのキットを用いて研究班で作成したパネル検体を採取・保存した。検査精度調査に用いるパネル検体として、サブタイプB、AE、CのHIV抗体陽性検体6例と陰性検体2例、あわせて8例の全血検体を調整した。陽性検体はBBI社のサブタイプパネル血清WWRB302の内、サブタイプB(WWRB302-26)、サブタイプAE(WWRB302-23)、サブタイプC(WWRB302-12)の3検体を陰性血液で希釈した。希釈濃度は3種類のサブタイプについてダイナスクリーンでの検出限界抗体価の8倍量と32倍量の2段階で調整した。パネル検体を採取・保存した検査キットはブラインドで各社に送付し、通常行っている郵送検査と同様に検査を行い、検査結果をパネルの内容と比較した。

郵送検査会社の臨床検体を対象とし、スク

リーニング検査陽性例20例中残余の検体がある17例について、PAによる抗体検査、抗体価測定とWBによる確認検査を行った。また陰性例10例についてPAによる抗体検査を行った。PAはジェネディアHIV-1/2ミックスPA(富士レビオ)、セロディアHIV-1(富士レビオ)、セロディアHIV-2(富士レビオ)、WBはラブプロット1(富士レビオ)を用いた。

C. 結果

1. アンケート結果(図1-5)

① HIV 郵送検査の開始年月

郵送検査を開始時期は、2000年5月、2000年8月、2002年、2003年、2003年10月、2005年4月、2006年4月、2006年12月であった。

② 検査申込方法(複数回答)

2006年に調査した6社が対応していた申込方法は、インターネットと電話が6社、FAXが4社、郵便が2社、店頭販売が1社であった。2007年の8社では、インターネットが8社、電話が6社、FAXが4社、店頭販売が3社、郵便が2社、定期健診が1社であった。2008年の8社では、インターネットが8社、電話が7社、FAXが5社、店頭販売が3社、郵便が2社、定期健診が2社であった。

③ 検査費用

検査費用は2006年が2625~7900円、2007年が2625~7950円、2008年が2625~7950円であった。平均検査費用は2006年が4687円、2007年が4335円、2008年が4610円であった。

④ 検査検体と保存方法、検体が血液の場合の採血器具

検査検体は8社すべて血液であり、採血はランセットによる指先穿刺であった。検体の保存は濾紙での保存が4社、専用容器での保存が4社であった。専用容器で保存している4社のうち、2社が遠心分離、1社がフィルターによる血球成分の除去を行っていた。

⑤ 受検者から会社への検体輸送方法

受検者から会社への検体輸送は、8社とも

郵便を用いていた。温度設定は、7社が室温、1社が冷蔵であった。

⑥ スクリーニング検査の方法と使用キット

郵送検査会社で使用されているスクリーニング検査法はPA法が3社、イムノクロマト法が2社、PA+EIA法が1社、EIA法が1社、CLEIA法が1社であった。PA法はジェネディア HIV-1/2 ミックス PA が主に使用されており、イムノクロマト法はダイナスクリーン HIV-1/2 (ダイナボット)、CLEIA法はルミバルス オーズ HIV-1/2 (オーズ) が使用されていた。

⑦ スクリーニング検査の実施施設

スクリーニング検査は8社中6社が自社のラボで行っていた。2社は提携している他の検査機関に検査を依頼していた。

⑧ 検査結果の通知方法と通知までの日数 (複数回答)

2006年に調査した6社が対応していた通知方法は、郵便が6社、e-mailが3社、専用サイト(ID、パスワードあり)が1社であった。2007年と2008年に調査した8社が対応していた通知方法は、郵便が8社、e-mailが4社、専用サイト(ID、パスワードあり)が3社であった。結果通知までの日数は、検体受領後1~14日であり、平均4日であった。

⑨ スクリーニング検査陽性時の対応 (複数回答)

2006年に調査した6社の対応は、病院に行くように勧めるのが5社、エイズ予防財団のカウンセリングをけるよう勧めるのが1社であった。また病院を勧めた会社の内、提携病院を勧めるのが1社、保健所でも確認検査を勧めるのが1社、ブロック拠点病院や各自治体エイズ相談窓口を紹介しているのが1社であった。

2007年に調査した8社の対応は、病院で確認検査を受けるように勧めるのが6社、確認検査の必要性を伝えエイズ予防財団のカウンセリングを受けるよう勧めるのが1社、スク

リーニング検査の結果のみ知らせ、対応は個人の判断に任せているのが1社であった。病院に行くようにすすめている6社のうち、自社で設けた専用の相談連絡先を知らせているのが2社、提携している医療機関に行くように勧めているのが1社、確認検査を実施しているのが1社、電話にて地域の中核病院で確認検査するよう指導しているのが1社あった。

2008年に調査した8社の対応は、7社が病院で確認検査を受けるかもしくは提携している医療機関に行く様に勧めており、病院・医療機関を紹介していない1社も自社で設けた専用の相談連絡先を知らせてスクリーニング検査陽性者の対応を行っていた。対応の内訳は、病院で確認検査を受けるように勧めているのが5社、提携している医療機関に行くように勧めているのが4社、自社で設けた専用の相談連絡先を知らせているのが2社、確認検査の必要性を伝えエイズ予防財団のカウンセリングを受けるよう勧めているのが1社、確認検査を実施しているのが1社、スクリーニング検査の結果を知らせて対応は個人の判断に任せているのが2社であった。

⑩ 年間検査数とスクリーニング検査陽性数

郵送検査全体の検査数は、2001年が3600件、2002年が5400件、2003年が7847件、2004年が13440件、2005年が26165件、2006年が39868件、2007年が44384件、2008年が50672件であった。またスクリーニング検査陽性数は、2001年が22例、2002年が36例、2003年が41例、2004年が73例、2005年が151例、2006年が221例、2007年が220例、2008年が234例であった。

⑪ 他に取り扱いしているSTD検査の種類 (複数回答)

2006年に6社に対して他に取り扱いしている検査を調査した結果、クラミジアと淋病は6社すべてが取り扱っていた。梅毒は5社が取り扱っており、B型肝炎とC型肝炎は4社、トリコモナスとカンジタは3社、ヒトパピロ

ーウイルスは2社、成人T細胞白血病とヘルペスは1社が取り扱っていた。2007年と2008年に8社に対して他に取り扱いしている検査を調査した結果、クラミジアと淋病は8社すべてが取り扱っていた。B型肝炎、C型肝炎、梅毒は6社が取り扱っており、トリコモナスとヒトパピローマウイルスは3社、単純ヘルペスウイルスは2社、カンジタ、成人T細胞白血病は1社が取り扱っていた。

2. 郵送検査の検査感度調査 (図6,7)

検査申込から結果が返ってくるまでの期間は3~7日であった。パネル検体と検査結果を照合した結果、陰性検体の2例(No.3,6)は5社すべてで陰性であった。また、陽性検体のうち抗体価が高い3例(No.1,4,7)とサブタイプBで抗体価が低い1例(No.2)は5社すべてで陽性であった。サブタイプAEとCで抗体価が低い2例(No.5,8)では4社が陽性、1社が要再検査であった。

3. 郵送検査会社臨床検体の抗体価測定と確認検査 (図8)

スクリーニング検査陽性例20例中残余の検体がある17例について、PAによるHIV-1/2、HIV-1、HIV-2の抗体検査を行った結果、HIV-1/2は17例すべて陽性、HIV-2は17例すべて陰性、HIV-1は陽性16例、陰性1例であった。HIV-1で陰性、HIV-1/2で陽性だった例の抗体価は64倍であった。両方のPAで陽性だった16例の抗体価はHIV-1/2でそれぞれ640倍、1280倍、6400倍、8000倍、8000倍、10240倍、12800倍、12800倍、25600倍、25600倍、25600倍、32000倍、64000倍、64000倍、128000倍、204800倍であり、HIV-1でそれぞれ320倍、1280倍、3200倍、32000倍、3200倍、5120倍、3200倍、12800倍、25600倍、51200倍、25600倍、64000倍、64000倍、25600倍、128000倍、204800倍であった。

WBによる確認検査の結果、陽性14例、陰性1例、判定保留2例であった。WBで陰性であった検体はHIV-1のPAが陰性であった検体

であった。この検体をさらに Real-time PCR で確認検査したところ WB と同様に陰性であった。WB で判定保留であった2例のPA抗体価はそれぞれ HIV-1/2 640倍、HIV-1 320倍と、HIV-1/2 8000倍、HIV-1 3200倍であった。

またスクリーニング検査陰性例10例について、PAによる抗体検査を行った結果、HIV-1/2、HIV-1、HIV-2ともに10例すべて陰性であった。

D. まとめと考察

HIV抗体検査を取り扱う郵送検査は2000年頃から始まっており、現在まで検査会社の数は増加していることが分かった。検査申込はインターネットと電話を中心に行われていた。検査費用と検査にかかる日数は、2008年の時点で2625~7950円と1~14日であり、各郵送検査会社によって異なっていた。検査検体は全社とも血液であり、郵送されてきたキットに添付されているランセットで採血し、濾紙や採血管で保存する形式をとっていた。郵送検査会社で行われる検査は、ほとんどの会社でPA法、イムノクロマト法、EIA法等、販売の認可を受けた臨床検査キットが用いられていた。検査結果の通知方法は郵送が中心であったが、e-mailや専用サイトで通知している会社も多く見られた。スクリーニング検査結果が陽性だった場合、ほとんどの検査会社で病院での検査をすすめていた。

郵送検査会社全体の年間検査数は2006年が39868件、2007年が44384件、2008年が50672件であり、2006年と比較して2008年には27%増加していた。保健所等における2008年のHIV検査数はおよそ17万件、検査センターはおよそ13万件であり、HIV検査の受検を希望する人の中で郵送検査は多くの割合を占めていた。郵送検査会社全体のスクリーニング検査陽性数は2006年の221例に対し2008年は234例とやや増加していた。この郵送検査の年間検査数とスクリーニング検査陽性数

についてはさらに継続して調査を行いたい。郵送検査は受検者への検査説明、検査相談、検査後フォローアップ等が対面では行われないため、十分な情報が伝えにくいことが考えられる。特に検査陽性時のフォローアップが医療機関等に繋がるように、検査結果の返却法および検査陽性時の対応等を各郵送検査会社の協力を得て検討していく必要がある。

郵送検査の検査感度調査として、パネル検体 8 例を用いて郵送検査を行った結果、参加を希望した 5 社全てで、陽性検体 6 例がすべて陽性(要再検査含む)、陰性検体 2 例がすべて陰性であった。また、特異性の検討として、郵送検査会社に送付された臨床検体 17 例について再検査を行った結果、HIV-1/2 PA はすべて陽性、HIV-2 PA はすべて陰性、HIV-1 PA は陽性 16 例と陰性 1 例、WB は陽性 14 例と陰性 1 例と判定保留 2 例であった。WB で陰性だった例は、HIV-1/2 PA で抗体価 64 倍と低く、HIV-1 PA で陰性であり、Real-time PCR でも陰性であることから偽陽性例であることが示された。WB で判定保留であった 2 例は、残検体が少なく Real-time PCR で検査を行うことができなかったが、WB の p24 バンドが確認されることから陽性例であることが疑われた。これらの検査精度調査については、偽陽性例や抗体価の低い例等、より多くの検体について詳細な検討が必要であり、郵送検査会社の協力を得て引き続き調査を行う予定である。

E. 発表

論文発表

1. Kondo M, Sudo K, Tanaka R, Sano T, Sagara H, Iwamuro S, Takebe Y, Imai M, Kato S. Quantitation of HIV-1 group M proviral DNA using TaqMan MGB real-time PCR. J Virol Methods. Jan 3., 2009. [E Pub]
2. Shuzo Usuku, Yuzo Noguchi, Mitsuo Sakamoto, Takuya Adachi, Hiroko

Sagara, Koji Sudo, Masako Nishizawa, Makiko Kondo, Osamu Tochikubo and Mitsunobu Imai. Analysis of a Long-Term Discrepancy in Drug-Targeted Genes in Plasma HIV-1 RNA and PBMC HIV-1 DNA in the Same Patient. Jpn. J. Infect. Dis., 59, 122-125, 2006.

3. 今井光信、嶋 貴子、須藤弘二、宮崎裕美、近藤真規子. HIV 検査相談体制について—HIV 即日検査の導入から普及まで—. 保健医療科学, 56(3): 203-209, 2007.
 4. 嶋 貴子、須藤弘二、近藤真規子、倉井華子、相楽裕子、今井光信. 蛍光酵素免疫測定法による新しい HIV 抗原抗体同時検出試薬(第 4 世代)の検討. 感染症学雑誌. 81(5): 562-572, 2007.
 5. 須藤弘二、嶋 貴子、近藤真規子、加藤真吾、今井光信. Real-time PCR を用いた HIV-1 RNA 測定キットの基礎的検討. 感染症学雑誌. 81(1): 1-5, 2007.
- 学会発表
1. 須藤弘二、加藤真吾. PCR と LC-MS を組み合わせた薬剤耐性変異定量法の検討. 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会、2008 年、大阪.
 2. 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、加藤真吾、今井光信. HIV 郵送検査に関する実態調査および検査精度の調査. 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会、2008 年、大阪.
 3. 須藤弘二、宮崎裕美、佐野貴子、近藤真規子、加藤真吾、今井光信. HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度の調査. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会、2007 年、広島.
 4. 須藤弘二、田中理恵、近藤真規子、今井光信、加藤真吾: HIV 感染者 PBMC 中のプロウイルスの multiplex nested

PCRによる構造解析. 第20回日本エイズ学会学術集会・総会、2006年、東京.

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許習得

1. 発明の名称：遺伝子変異検出システム及び遺伝子変異検出方法. 発明者：加藤眞吾、須藤弘二. 発願年月日：2008年5月19日. 出願番号：特願2008-131243号.

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

メール返送先 kensahan@m10.alpha-net.ne.jp
 FAX 返送先 0467-83-4457

厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業
 「HIV 検査相談機会の拡大と質的充実にに関する研究」班

(神奈川県衛生研究所 今井光信 行)

このアンケートは、HIV 郵送検査の実態を調査させていただくために、インターネットで検索可能であった HIV 郵送検査を取り扱っている会社様宛にお送りさせていただいております。本アンケート調査の集計結果は、個々の会社名を記号化して使用いたします。(アンケートの集計結果は、会社名を記号化して、研究班の報告書や学会等で報告することがあります。) 答えにくい質問は空欄でも結構です。より良い HIV 検査体制の構築のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

以下のアンケート項目にお答えください。あてはまるところに丸または書き込みをお願いします。誠に申し訳ありませんが、1月12日(金)までに御返信頂けます様、宜しくお願い申し上げます。

貴社名 _____ 部署名 _____
 担当者名 _____ 様
 貴社住所 _____
 連絡先 Tel _____ FAX _____ e-mail _____

- ① HIV 郵送検査を取り扱った開始年月を教えてください。

_____ 年 _____ 月 より開始

- ② HIV 検査の申し込み方法を教えてください。

インターネット ・ 電話 ・ FAX ・ 郵便 ・ 店頭(店名 _____)
 その他(_____)

- ③ HIV 郵送検査の費用を教えてください。

_____ 円(税込)

- ④ HIV 郵送検査に用いる検体とその保存する方法を教えてください。また検体が血液の場合、採血する方法と使用器具について、併せて教えてください。

<検査検体> 血液 ・ 唾液 ・ 尿 ・ その他(_____)
 <保存方法> 専用採血管 ・ 専用容器 ・ ろ紙 ・ その他(_____)

→検体が血液の場合

<採血方法> 指先穿刺 ・ 耳朶採血 ・ その他(_____)
 <使用器具> ランセット ・ その他(_____)

- ⑤ 受検者から貴社への検体輸送方法について教えてください。

<検体輸送方法> 郵便(宅急便) ・ その他(_____)
 <設定温度> 室温 ・ 冷蔵 _____℃ ・ 凍結 _____℃

- ⑥ HIVスクリーニング検査の方法と使用キット名を教えてください。
PA法 ・ EIA法 ・ イムノクロマト法 ・ その他 ()
キット名_____
- ⑦ HIVスクリーニング検査の実施施設を教えてください。
自社内ラボ ・ 他の検査機関 (機関名_____)
- ⑧ HIVスクリーニング検査結果の通知方法と通知までの日数を教えてください。
e-mail (携帯 ・ PC) ・ 郵送 ・ その他 ()
検体受領後_____日で結果を通知
- ⑨ HIV確認検査を実施していますか?
はい ・ いいえ

→はいの場合 その結果は本人に通知しますか?
はい ・ いいえ
- ⑩ HIVスクリーニング検査陽性の場合、どのように確認検査をすすめますか?
対応方法を教えてください。
A. 自社で設けた専用の連絡先を知らせる。
B. 提携している病院に行くようにすすめる。
C. 病院に行くようにすすめるが特に病院は特定していない。
D. 保健所で確認検査を受けるようにすすめる。
E. スクリーニング検査の結果のみ知らせ、対応は個人の判断に任せる。
F. その他 ()
- ⑪ 年間のHIV検査取り扱い数とHIVスクリーニング検査陽性数を教えてください。

	～2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
年間検査数						
陽性数						

この検査数と陽性数は、個別の会社の数として公表することではなく、全郵送検査会社の合計数としてのみご報告させていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

- ⑫ 他に取り扱いしているSTD検査のその種類を教えてください。
B型肝炎 ・ C型肝炎 ・ 梅毒 ・ クラミジア ・ 淋病
その他 ()
- ⑬ HIV郵送検査、その他のHIV検査に関して何かございましたら、御意見をお聞かせください。

御協力ありがとうございました。

資料2

HIV 郵送検査に関するアンケート(2007)

メール返送先 kensahan@m10.alpha-net.ne.jp
 FAX 返送先 0467-83-4457

厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業
 「HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究」班

(神奈川県衛生研究所 今井光信 行)

このアンケートは、HIV 郵送検査の実態を調査させていただくために、インターネットで検索可能であった HIV 郵送検査を取り扱っている会社様宛にお送りさせていただいております。本アンケート調査の集計結果は、個々の会社名を記号化して使用いたします。(アンケートの集計結果は、会社名を記号化して、研究班の報告書や学会等で報告することがあります。) 答えにくい質問は空欄でも結構です。より良い HIV 検査体制の構築のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

以下のアンケート項目にお答えください。あてはまるところに丸または書き込みをお願いします。誠に申し訳ありませんが、2月12日(火)までに御返信頂けます様、宜しくお願い申し上げます。

貴社名 _____ 部署名 _____
 担当者名 _____ 様
 貴社住所 _____
 連絡先 Tel _____ FAX _____ e-mail _____

- ① HIV 郵送検査の開始年月を教えてください。
 _____ 年 _____ 月 より開始
- ② HIV 検査の申し込み方法を教えてください。
 インターネット ・ 電話 ・ FAX ・ 郵便 ・ 店頭 (店名 _____)
 その他 (_____)
- ③ HIV 郵送検査の費用を教えてください。
 _____ 円 (税込)
- ④ HIV 郵送検査に用いる検体とその保存方法を教えてください。また検体が血液の場合、採血部位と使用器具について、併せて教えてください。
 <検査検体> 血液 ・ 唾液 ・ 尿 ・ その他 (_____)
 <保存方法> 専用容器 (抗凝固剤 ・ 血清分離剤) ・ ろ紙 ・ その他 (_____)
 →検体が血液の場合
 <採血部位> 指先穿刺 ・ 耳朶採血 ・ その他 (_____)
 <使用器具> ランセット ・ その他 (_____)
- ⑤ 受検者から貴社への検体輸送方法について教えてください。
 <検体輸送方法> 郵便 (宅急便) ・ その他 (_____)
 <設定温度> 室温 ・ 冷蔵 _____℃ ・ 凍結 _____℃
- ⑥ HIV スクリーニング検査の方法と使用キット名を教えてください。
 PA法 ・ EIA法 ・ イムノクロマト法 ・ その他 (_____)
 キット名 _____

⑦ HIV スクリーニング検査をどのように実施していますか。
自社内ラボ ・ 他の検査機関 (機関名_____)

⑧ HIV スクリーニング検査結果の通知方法と通知までの日数を教えてください。
e-mail (携帯 ・ PC) ・ 郵送 ・ その他 (_____)
検体受領後_____日で結果を通知

⑨ HIV スクリーニング検査陽性の場合の対応方法を教えてください。(複数回答可)

- A. 保健所で確認検査を受けるように勧める。
- B. 病院で確認検査を受けるように勧める。
- C. 提携している医療機関に行くように勧める。(提携医療機関_____)
- D. 自社で設けた専用の相談連絡先を知らせる。(電話 ・ メール)
- E. HIV に関する相談窓口を紹介する。(エイズ予防財団・NPO・その他_____)
- F. 追加検査、確認検査を実施している。(方法_____)(キット名_____)
→受検者への結果通知に反映させている。(はい ・ いいえ)
- G. スクリーニング検査の結果のみ知らせ、対応は個人の判断に任せる。
- H. その他 (_____)

⑩ 年間の HIV 検査取り扱い数と HIV スクリーニング検査陽性数を教えてください。

	2005年	2006年	2007年
年間検査数			
陽性数			

この検査数と陽性数は、個別の会社の数として公表することではなく、全郵送検査会社の合計数としてのみご報告させていただきますので、ご協力をよろしくお願いします。

貴社の郵送検査陽性者はどのくらいが確認検査でも陽性となると思いますか?
(おおよそ_____ % その理由_____)

貴社の郵送検査陽性者はどのくらいが確認検査を受けていると思いますか?
(おおよそ_____ % その理由_____)

⑪ 他に取り扱いしている STD 検査のその種類を教えてください。
B 型肝炎 ・ C 型肝炎 ・ 梅毒 ・ クラミジア ・ 淋病
その他 (_____)

⑫ 郵送検査を行うにあたって、国、都道府県等の届出、申請等、どのような手続きを行いましたか。

⑬ HIV 郵送検査、その他の HIV 検査に関して何かございましたら、御意見をお聞かせください。
(必要があれば適宜別紙を追加し御記載ください)

御協力ありがとうございました。

資料3

HIV 郵送検査に関するアンケート(2008)

メール返送先 kensahan@m10.alpha-net.ne.jp
 FAX 返送先 0467-83-4457

厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業
 「HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究」班

(神奈川県衛生研究所 今井光信 行)

このアンケートは、HIV 郵送検査の実態を調査させていただくために、インターネットで検索可能であった HIV 郵送検査を取り扱っている会社様宛にお送りさせていただいております。本アンケート調査の集計結果は、個々の会社名を記号化して使用いたします。(アンケートの集計結果は、会社名を記号化して、研究班の報告書や学会等で報告することがあります。) 答えにくい質問は空欄でも結構です。より良い HIV 検査体制の構築のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

以下のアンケート項目にお答えください。あてはまるところに丸または書き込みをお願いします。昨年のアンケートにお答え頂いており、昨年と変更がない項目については変更無しに丸をお願いします。誠に申し訳ありませんが、2月24日(火)までに御返信頂けます様、よろしくお願い申し上げます。

貴社名 _____ 部署名 _____
 担当者名 _____ 様
 貴社住所 _____
 連絡先 Tel _____ FAX _____ e-mail _____

- ① HIV 郵送検査の開始年月を教えてください。
 _____ 年 _____ 月 より開始 ・ 変更なし
- ② HIV 検査の申し込み方法を教えてください。
 インターネット ・ 電話 ・ FAX ・ 郵便 ・ 定期健診 ・ 店頭(店名 _____)
 その他 (_____) ・ 変更なし
- ③ HIV 郵送検査の費用を教えてください。
 _____ 円 (税込 _____) ・ 変更なし
- ④ HIV 郵送検査に用いる検体とその保存方法を教えてください。また検体が血液の場合、採血部位と使用器具について、併せて教えてください。
 <検査検体> 血液 ・ 唾液 ・ 尿 ・ その他 (_____) ・ 変更なし
 <保存方法> 専用容器 (抗凝固剤 ・ 血清分離剤) ・ ろ紙 ・ その他 (_____)
 →検体が血液の場合
 <採血部位> 指先穿刺 ・ 耳朶採血 ・ その他 (_____)
 <使用器具> ランセット ・ その他 (_____)
- ⑤ 受検者から貴社への検体輸送方法について教えてください。
 <検体輸送方法> 郵便(宅急便) ・ その他 (_____) ・ 変更なし
 <設定温度> 室温 ・ 冷蔵 _____℃ ・ 凍結 _____℃
- ⑥ HIV スクリーニング検査の方法と使用キット名を教えてください。
 PA 法 ・ EIA 法 ・ イムノクロマト法 ・ その他 (_____) ・ 変更なし
 キット名 _____

⑦ HIVスクリーニング検査をどのように実施していますか。
自社内ラボ ・ 他の検査機関 (機関名 _____) ・ 変更なし

⑧ HIVスクリーニング検査結果の通知方法と通知までの日数を教えてください。
e-mail (携帯 ・ PC) ・ 郵送 ・ その他 (_____) ・ 変更なし
検体受領後 _____ 日で結果を通知

⑨ HIVスクリーニング検査陽性の場合の対応方法を教えてください。(複数回答可)

- A. 保健所で確認検査を受けるように勧める。 ・ 変更なし
- B. 病院で確認検査を受けるように勧める。
- C. 提携している医療機関に行くように勧める。(提携医療機関 _____)
- D. 自社で設けた専用の相談連絡先を知らせる。(電話 ・ メール)
- E. HIVに関する相談窓口を紹介する。(エイズ予防財団・NPO・その他 _____)
- F. 追加検査、確認検査を実施している。(方法 _____) (キット名 _____)
→受検者への結果通知に反映させている。(はい ・ いいえ)
- G. スクリーニング検査の結果のみ知らせ、対応は個人の判断に任せる。
- H. その他 (_____)

⑩ 昨年(2008年)のHIV検査取り扱い数とHIVスクリーニング検査陽性数を教えてください。
年間検査数 _____ 件 (うち団体・定期健診等 _____ %)
検査陽性数 _____ 件

この検査数と陽性数は、個別の会社の数として公表することはない、全郵送検査会社の合計数としてのみご報告させていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

⑪ 昨年より前のHIV検査取り扱い数とHIVスクリーニング検査陽性数を教えてください。
・ 変更なし

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
年間検査数						
検査陽性数						

⑫ 他に取り扱いしているSTD検査のその種類を教えてください。
B型肝炎 ・ C型肝炎 ・ 梅毒 ・ クラミジア ・ 淋病 ・ 変更なし
その他 (_____)

⑬ 郵送検査を行うにあたって、国、都道府県等の届出、申請等、どのような手続きを行いましたか。
・ 変更なし

⑭ HIV郵送検査に関連して今後の課題・展望等ございましたら、御意見をお聞かせください。
(必要があれば適宜別紙を追加し御記載ください)

御協力ありがとうございました。

図1 HIV郵送検査の調査 —調査対象の選択—

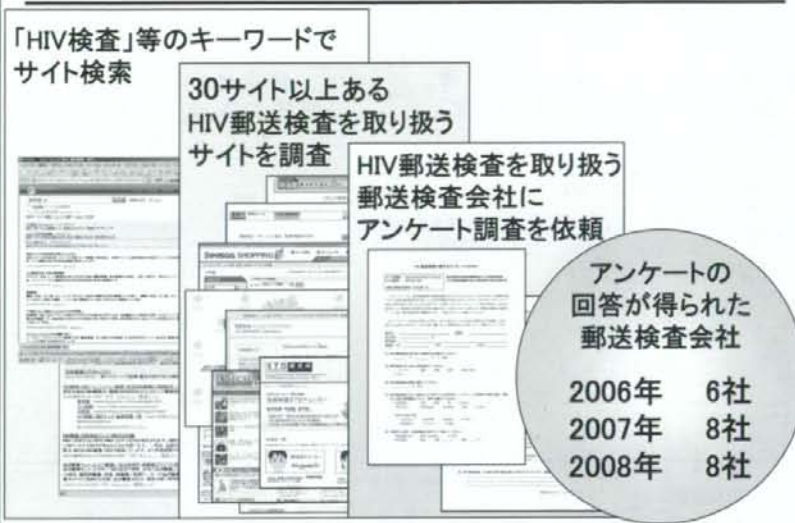


図2 アンケート内容

- ・検査申込方法
- ・検査費用
- ・使用検体と保存方法
- ・検体搬送方法
- ・検査法(使用キット)
- ・検査実施施設(自社内ラボ・外注)
- ・結果通知方法と通知までの日数
- ・スクリーニング検査陽性時の対応
- ・年間検査数とスクリーニング陽性数
- ・他に行っているSTD検査

図3 郵送検査の流れ(2008)



図4 検査結果の通知方法と陽性時の対応(2008)

通知方法 (複数回答)

- ・ 郵送(希望者への通知を含む) 8社
- ・ 携帯・PCへのメール 4社
- ・ 専用サイト(ID、パスワード付) 3社



陽性時の対応 (複数回答)

- ・ 病院等の医療機関での確認検査を勧める 5社
- ・ 提携している医療機関に行くように勧める 4社
- ・ 自社で設けた専用の相談連絡先を知らせる 2社
- ・ 確認検査の必要性を伝え、エイズ予防財団の
カウンセリングを受けるよう勧める 1社
- ・ 確認検査を実施している 1社
- ・ 検査結果を知らせ対応は個人の判断に任せる 2社

図5

HIV郵送検査の動向

検査数とスクリーニング検査陽性数の推移 (2001-2008)

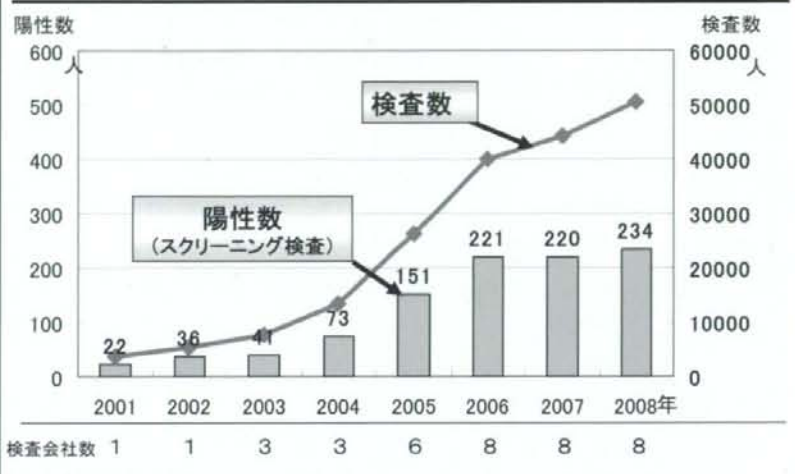


図6

郵送検査の検査精度の調査

